

登園許可を必要とする感染症一覧

病名	潜伏期	感染経路	前駆期(早期の症状)	主な症状と経過	季節流行	予防接種	休園のめやす	留意点・注意事項
麻疹	約10日	咳、くしゃみなどによる飛沫、接触	3～4日間の発熱。咳・くしゃみ・鼻水・目やに。結膜炎おこすこともある。	発疹・発熱2～4日前にコピリック斑(口内炎に似ている。)が出る。発疹は首かええら全身に広がる。	一年中 (特に5・6月)	有	主要症状消失後7日まで	伝染力が強いので、予防接種をしたほうが良い。肺炎、髄膜炎、中耳炎に注意する。
水痘	2～3週間	だ液による飛沫、接触	発疹で始まり37～38℃の発熱(でない場合もある。)食欲不振など	斑点が急激に進展し、丘疹→水泡→かさぶたになる。頭や口の中にもできる。	冬～春	有	全ての発疹がかさぶたになるまで。	かゆみが強いので、爪を切って清潔にしておく。
風疹	2～3週間	だ液による飛沫	発疹とともに発疹がでる。	桃色の発疹が耳の後ろや首から始まり、3～4日で消える。耳の後ろ・後頭部のリンパせんが腫れ、圧痛がある	1～5月	有	全ての発疹が消えるまで	髄膜炎に注意をする。妊婦初期は要注意
流行性耳下腺炎	2～3週間	だ液による飛沫	熱・頭痛・嘔吐・腹痛・食欲不振などの症状が続く。口を開けると痛い。	耳下腺が腫れる(片側だけの場合もある。)腫れは3～15日で平均8日間続く。	一年中 (特に特に真夏真冬)	有	耳下腺の腫れがひくまで。	髄膜炎、こう丸炎、卵巣炎に注意する。
百日咳	1～2週間	だ液による飛沫	風邪症状。 ～2週間にわたり咳、鼻水、くしゃみ。	3～4週間後、コンコン、ヒューヒューと特有の咳が出る。夜間にひどい。	秋	有	特有の咳がなくなるまで	肺炎、髄膜炎、中耳炎に注意をする。特に乳児は重症になりやすい
インフルエンザ	1～3日	咳、くしゃみなどによる飛沫	突然の発熱(寒気と高熱)咳・咽頭痛・頭痛・嘔吐下痢を伴う。倦怠感	鼻水など分泌物が少ない。リンパ腺の腫脹なし。	秋～春	有	医師の指示による。	肺炎になりやすい。予防接種は卵アレルギーの人は受けられません。
溶連菌感染症	2～5日	飛沫、接触	高熱半日が首、胸、下肢の股に淡紅色の発疹	扁桃腺、首のリンパ腺腫脹。口の周辺に発疹なし。舌がイチゴのように赤くなる。	冬～春	無	主要症状が消失するまで。	回復期の急性腎炎、リュウマチ熱に注意。抗生剤治療が有効。
流行性角結膜炎	5～7日	目やにによる接触	目がゴロゴロして痛かゆい	目やに、発熱、充血。	一年中 (特に夏～秋)	無	充血がとれ、目やにがなくなるまで	手指の手洗い。タオルの共用はしない。角膜炎による視力低下に注意。
咽頭結膜炎熱(プール熱)	3～5日	接触、飛沫、経口	突然39℃前後の発熱が1～3日続く。	目やに、咽頭痛、リンパ腺の腫れ。	夏	無	充血がとれ、目やにがなくなるまで	プール内感染に注意。冬にも流行することがある。

集団生活が可能かどうか医師の指示による感染症一覧表

病名	潜伏期	感染経路	前駆期(早期の症状)	主な症状と経過	季節流行	予防接種	出席停止のめやす	留意点・注意事項
手足口病	2～4日	飛沫、接触	発熱。 手の平、足の裏に小さな水泡。	口の中の中にもできる。(口内炎) 水痘とは違い、胸腹背中にはできない。	初夏～初冬	無	症状により、医師の指示による	発熱は不定である。食欲不振になるので、消化の良いものを与える。
伝染性紅斑(リンゴ病)	1～2週間	飛沫、接触	発熱はあまりない。時に37℃。顔両ほほに発疹。	紅斑は蝶のような形で、口の周りにはできない。	冬～春	無	症状により、医師の指示による	ジンマシン、アレルギーと間違われることもある。腕や足にレース様の紅斑がでる。
伝染性膿痂疹(とびひ)		接触	皮膚が赤くなり、次第に米粒大の水膨になり、だんだん大きくなる。	水泡は薄く、破れやすい。じゅくじゅく→かさぶたをつくる。顔にできると伝染性が強い。	夏～冬	無	広範囲の場合は医師の指示による。	掻きこわさないように爪は切っておく。急性腎炎に注意する。
ヘルパンギーナ	2～3日	飛沫	高熱が3～5日続く	のどに赤い発疹ができて2～3日すると中心部が化膿する。	夏	無	風邪の処置と同様	喉が痛くて水分が取り難いため、脱水症に注意。
突発性発疹		だ液感染	突然39℃～40℃の高熱が3日続く。耳の後ろのリンパ節の腫れ。	熱が下がるとともに、バラ色の小さな発疹がでる。2～3日後に消失する。		無		熱性けいれんに注意。
乳幼児嘔吐下痢症	4～5日	経口(便から)		嘔吐 酸味の強い白色水様便	冬	無	医師の指示による。	脱水症状に注意。 手洗いの励行。
マイコプラズマ肺炎	2～3週間	飛沫	発熱、咳など風邪の様な症状。 発疹を伴う場合。	微熱が長期に続き、咳が長く続く。 レントゲン検査で発見されることが多い。		無	主要な症状が消失するまで。 医師の指示による。	4年毎のオリンピックの年に多い。合併症に中耳炎、脳炎など。

- ※ 上記のように登園許可証が必要でない場合でも症状、年齢によって感染力が強く安静を必要とすることがあります。
保育園へ通園していることを医師に伝え、集団生活が可能であるか確認してください。
- ※ 病気の治療後(伝染病、中耳炎、下痢症など)は他の伝染病、二次感染症を起こしやすいので、徐々に普通の生活に戻すようにすると回復が早いです。
- ※ 家族の中で伝染病にかかった場合や肝炎などにかかった場合などは、速やかにお知らせください。